

第3回 氷見市総合計画審議会第2部会 会議録		
日 時	令和3年10月20日（水） 13時30分から15時00分まで	
場 所	氷見市役所 201会議室	
出席者	委 員	大嶋充、河上昌俊、高木陽子、辻井満男、西川扇博、西森正憲、野畑圭造、吉崎一美（出席8名）（欠席2名：河原朱里、坂下明生）
	市関係職員等	東軒企画政策部長、事務局（地方創生推進課）
次 第	1 開 会 2 企画政策部長あいさつ 3 議事 （1）第9次氷見市総合計画基本計画体系図（案）について （2）第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について （3）意見交換について 4 閉 会	
資 料	<b>【説明資料】</b> 資料1 氷見市総合計画審議会部会名簿 資料2 第4回氷見市総合計画審議会における意見に対する対応について 資料3 第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて <b>【参考資料】</b> 参考資料1 第4回氷見市総合計画審議会会議録 参考資料2 第9次氷見市総合計画策定のための市民意識調査の結果について	

## 1 開 会

（司会）

それでは、少し早いですが皆様お集りですので、只今より第3回氷見市総合計画審議会第2部会を開催する。

## 2 企画政策部長あいさつ

（企画政策部長）

皆様方には、多用の中、第3回氷見市総合計画審議会第2部会に出席いただき、御礼申し上げます。

また、日頃から、市政発展のため、ご支援、ご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、先月9月29日に第4回氷見市総合計画審議会が開催され、第9次氷見市総合計画

基本計画（素案）について、議論頂いた。

本日の第2部会において、基本計画をより良いものとするために、「子育て、教育、生涯学習、芸術・文化、スポーツ、市民活動等」に関する事項について、それぞれの専門分野の知見を活かして議論いただきたいと考えている。

皆様からいただいたご意見については、今後基本計画案への反映に向けて整理し、11月中旬に部会長と会長に協議し、来年1月開催予定の審議会で最終決定をさせていただきたい。

委員の皆様方におかれましては、忌憚のないご意見を賜りますようお願いする。

本日は、よろしくお願い申し上げます。

（事務局）

資料について説明・確認

### 3 議事

（1）第9次氷見市総合計画基本計画体系図（案）について（2）第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について

（事務局）

議事進行は、部会長にお願いする。

（部会長）

皆様、ご苦勞様です。よろしくお願いする。

それでは、まず第9次氷見市総合計画基本計画（素案）について、進めていきたい。

まずは、資料2「第4回氷見市総合計画審議会での委員からの主な意見、対応について」それから、資料3「第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて」事務局から一括して説明をお願いする。

（事務局）

「資料2 第4回氷見市総合計画審議会での委員からの主な意見、対応について」

「資料3 第9次氷見市総合計画基本計画の重点施策におけるポイントについて」

を説明。

（部会長）

今ほどの事務局からの説明を受けて、皆様からご意見ご質問等をお聞きしたい。少し考える時間を設けるので、よく読んで自分の考えをまとめていただきたい。

(委員)

素案の中に「文化」を加えるのはいいことだと思う。郷土の歴史や文化、芸術を大切にしていけることは非常に大切なことである。

氷見といえば浅野総一郎と言われているが、それよりもっともっと昔の「古墳」がある。日本海側沿岸の最大の前方後方墳と言われるものが柳田にあり、毎年11月3日に柳田古墳祭をやっている。ボランティアの方々が一生懸命やっておられる。日本海側沿岸にある古墳を保存すると同時に、氷見市としてのイベントに格上げしていただきたい。文科省の関係もあるかもしれないが、氷見市を訪れた人に日本海側沿岸の最大の古墳があるのか、氷見はそういうところなのかと知っていただくことが大事。そういったことを念頭に置いていただきたい。より多くの人に氷見の魅力を発信すべきだと思う。

以前から氷見市長に、柳田古墳祭でなく氷見市のイベントとして取り扱ってほしいとお願っているが、市長は忘れているのかもしれない。それくらいの価値があると思う。

(部会長)

氷見には、今おっしゃった前方後方墳の他にも朝日貝塚、大境洞窟がある。これらの歴史的遺産、遺跡といった非常に価値あるものを大切に、文化との一つの関り、事物そのもの、現象という人との関わり、これらの事物と現象とが合わさって事象になる。

観光とも関わってくるが、氷見にこういうものがあるという認識を持つことが市民として大事なことだと思う。特に最近、前方後方墳が話題となって、日本海側最大ということになると大きな宣伝効果があり、氷見市民としての誇りを持ってもらいたいという貴重なご意見だったと思う。

(委員)

素案の97ページ、スポーツの推進の(2)、(3)についてである。

オリンピックやパラリンピックも終わって、これから氷見はどんなスポーツに目を向けてやっていかなければいけないか、大事な時期に入ると思う。

氷見のスポーツを見ると、ハンドボールで全国的に有名な選手がいるが、現状では氷見高校でハンドボールをしていて卒業後、県外の大学に進学して、そこで就職する人が大半で、ほとんど氷見に帰ってこない例が多い。なぜか、帰ってきてもハンドボールを続けられる環境がないから。例えば、県外の大学に行っても、氷見に帰ってきて大好きなハンドボールを続けていける環境があれば、氷見に戻ってくるのではないか。アランマーレのようにはいかないかもしれないが、魅力ある会社で働きながらスポーツを続けていける、また、会社のロゴを付けるなど、プロチームを氷見に作る事ができれば、地元に戻ってくる機会が増えてくるのではないかと、氷見を訪れる人も増えるのではないかとと思う。

そのためには、氷見市の企業の協力、理解がないとできない。もっとそういった環境を整えたいと思う。

選手の間は企業に所属しているが、選手を辞めるとどこか別の企業に就職して氷見には帰って来なくなってしまう。氷見に戻ってきてもらえるような環境を整えていけば、戻ってきてくれるのではないか。ハンドボールだけではなく他のスポーツでも、市としての環境づくりをすることが重要だと思う。ハンドボールの街氷見と名付けた以上は、何かしなければならぬ。

また、パラリンピックがあったが、障害者スポーツということに触れていないので、これからは触れていかなければならぬ。

それから、スケートボードの中山選手を見ていると、勝ち負けでなく、選手同士が称え合う姿というものは、これからの新しいスポーツの表現の仕方なのかなと思う。これからはこのようなスポーツの形がどんどん広がってくるのではないかと、子供たちの競技人口も増えるのではないかと考えられる。

もう一つは、部活動において、体育協会としても教育委員会と連携しながら、指導者の育成や派遣ができるような体制作りをこれから考えていかなければいけないと思っている。

#### (部会長)

特に生涯スポーツということで、大学がゴールではなく、働きながらスポーツを続けられる社会になれば良いということでした。これは、ハンドボールに限らず様々なスポーツに言えることだと思う。芸術も同じく、仕事以外に一生携わることができるものを持つ環境を作ることが大切だというご意見だった。

それから、弱者と言われる人たちにも、ボッチャなどの競技で自分自身の存在をアピールできる、自分を認めてもらえるという環境はスポーツにおいても大事。

また、部活動については、大学に行って帰ってきても、高校のころと同じように指導者として続けられるということも一つの在り方なのではないかと思う。

アランマーレのようなことは富山では難しいかもしれないが、県外の大学に行っている、部活動の指導者として戻ってきてもらえるような仕組みを作っていかなければならぬと思う。希望を持って大学に行き、帰ってきたらハンドボールや野球の指導をするのだという展望を持つようにするという意見だった

#### (事務局)

確かに、小中高と部活で活躍された方がなかなか地元に戻ってこないということは市としても課題である。

アランマーレのような団体、チームがあればまた戻ってきてもらえる機会にもなると思うので、今後考えていかなければならぬと思う。

また、障害者スポーツについての記載がほとんどないということは、役所内でも話をしている。

例えば障害者が体を動かすという部分になると、福祉介護課が担当となり、それを超えて

スポーツ、アスリートということになると、スポーツ振興課が担当。

氷見で一生懸命やっておられる方がいるのかどうかも私共では把握していない状況であるが、盛り上げていくというところは非常に大事な視点だと思う。

スポーツを通して生きがいや人との触れ合いも生まれてくるので、障害者が外に出る機会にも繋がってくるので、今後盛り込むかどうかは担当課とも研究していきたいと考えている。

富山県は、サッカーも野球もバスケもプロチームがあるので、もう少し工夫すれば何とかならないかと思うので、また研究していきたい。

(部会長)

そうこったことを視野に入れた計画ということも考えて行っていただきたい。

(委員)

年に一度、障害者のスポーツ大会が開催されている。ここ2年はコロナの関係でやっていないが、知的障害を持った高校生のかけっこが一番盛り上がる。

全国大会に出る人もいるくらいなので、是非そういった情報を知ってもらいたい。身体障害者なりに皆さんいろんな活動を一生懸命されているので、それをもっと知ってもらえたら良い。

(部会長)

最近ではパラリンピックが重視されてきており、これからの計画の中には視点として大事だと思う。我々も今日初めて知ったように、市民の皆さんにも広く周知することが、次のステップに繋がってくるのではないかと思う。

また、婦人会としてはどうか。

(委員)

婦人会の会員不足は以前からお話ししているが、最近ではかつて婦人会をやっていた人たちが個人会員という形で入ってもらっている。

氷見市の女性議会メンバーが相当婦人会に入ってもらって、若手を盛り上げてくださっている。そのうちの一人は、宮田の学童の先生をするようになって、そうすることで宮田のいろいろな情報を得て知識を得ていただいている。将来間に合うかなと思ってとても喜んでいる。

当時の議会メンバーは、最初の2年間くらいは毎月顔合わせをしていたが、このコロナ禍でなかなか集まることができなくなっている。婦人会に入っていて、また一緒に活動するというふうにはやっている。今は市民議会のような形になって、いろんな人が入ってきて、なかなか次の人が入っていただけないというちょっと残念な感じになっている。

(部会長)

氷見市だけではなく、全国的に婦人会が組織として成り立たなくなっていることは非常に寂しいことだと思う。

(委員)

年齢が上がって、会員が減ってきているので、若い人に入っていていただいでなんとか維持していけないかと思っている。

(部会長)

議会という窓口を通して、婦人会の活動を持続させていくことは可能なのか。  
芸術文化団体協議会としてはいかがか。

(委員)

構成員自身は高齢化している。コロナでここ2年程、舞台発表などができなくて、休んだら休み癖がつくというか、やっぱりやらない方が楽ですからね。

コロナもだいぶ下火になって今がいいチャンスなのであるが、本人たちのやる気が無くなってしまっている。せっかくポスターにいろんな催しものを書いたが、結構中止になっていて残念である。

また、「市から中止にしろ」と言われた等の声を聞いたりすると、市がそんなこと言う訳がないのに変な風に伝わっていて非常に残念な気持ちになる。例えば、2日間でやるものをいろいろ工夫して、収録と本番を1日でやるというように苦労してやっているにも関わらず、何でも好きなことを言う人がいるものだなと思う。山野草展なんて全然密にもならないのに、「市の方からそう言って来られたものだから」というふうになってしまう。芸術団体協議会としては、是非やってください、やり方を変えればいくらでも来ていただけるのだからと言うが、いや辞めますというような変な誤解があつてとても残念である。

何でもそうなのですが、生の舞台を実際に見た時の感動というものは大人も子供も一緒に、感じるものが違う。ここしばらくは会館できていないので、そういう機会が減ってきているが、これから期待している。できるだけ生でいろんなもの、絵画などを見たいと思っている。心待ちにしている。

また、会館の使い勝手が悪いということも言われているが、なるべく皆さんが使い勝手の良いものにしていただきたい。

それから先程、いわれたように、古墳祭りをすることは大賛成である。長い間氷見に住んでいるが、柳田の古墳はわざわざ足を運んでまで見に行ったことがなかったのであるが、つい最近見に行く機会があり、氷見にこんな素晴らしいものがあったのかと初めて知った。子どもころに、大境洞窟や朝日貝塚などは遠足で行ったことはあるが、大人になってわざわざそこへ行くことはないので、お祭りのような形になれば行く人も増えると思う。本当に素

晴らしい文化遺産があるのだから、大いにそれを広めた方が良いと思う。

(部会長)

芸術、文化を持続するという事は、人をどう持続させるかということだと思ふ。

特に若い人がいないということは婦人会もそうであるが、全ての組織に言えることだと思ふ。人をどうつなげていくかだと思ふ。50歳より若い人がいなくて、10年後20年後の芸術文化団体はどうなるのか心配だと思ふ。

(委員)

心配である。中間が全然いないわけですから。

(部会長)

文化会館は立派になったが、そこで発表する人、見る人が少なくなっている。これは寂しい。ここにどんどんお金をかけて文化や芸術を持続保存していかなければならない。

(委員)

いろんな役者さんのステージを見ていただくこと、地元の方はもちろんですが、アーティストを呼ぶなどして、どんどんお金をかけてやっていただかないといけないと思ふ。これは非常に大事なことだと思ふ。

(部会長)

建物も新しくなって非常に期待がかかっているわけで、飛躍する一つの起爆剤となれば良いと思ふ。

(委員)

立地もすごく良いですから、交通の便もいいですし、非常に期待している。

(部会長)

若い人たちがどんどん歌ったり踊ったりしてくれるような、そういう時代になれば良い。

(委員)

第9次の総合計画で思ったことは、人口の増加がないと評価として全然ダメだということである。いろんなことが、全て人口増加につながるように、子育て支援や結婚相談所など、いろんなことを全部絡めてやっていかなければならないと思ふ。

ふるさと教育の充実が必要になってくると思ふ。88ページの(1)学校・家庭・地域・企業が一体となつてとある。細かい項目には、ただ教育推進体制の整備しか書いてないが、具

体的な事例として、地元の市民が小学生中学生と関わり合う授業があっても良いのではないかと思う。

例えば、医者講話を聞いて、氷見市の今後の医療はどうなっていくのか、水産・林業・農業が、先細りしていくという現状を知ることによって、小学生、中学生がこれではだめだと思い、将来ここへ戻ってきてそれに関わろうとする子どもが増えるはずである。

そういった取り組みを実際しているのが、秋田県の大曲市。ここは、市が中心となってイベントをしている。企業がやるイベントに小中学生をボランティアとして募集している。それを指導するのは市の職員である。子どもが大人と関わることで、市民全体が良くなってきており、生徒指導的な問題がゼロだそうである。

実は、この大曲市は10月29日に全国大会をする。WEBで視聴できるので、参加してみようと思うが、このような取り組みを少しやってみて、今後、来年、再来年あたりにそういうことができれば、体制の整備のところに加えていけば、市全体として動けるのではないかと思う。

また、大学に行った後に戻ってこられるようないろんな体制をとっていければ良いと思う。

(部会長)

これからコミュニティを作るのは難しい。学校だけではなく地域で子供を育てるという意識、場合によっては教育目標も一緒に考えるような時代にしなければならない。富山は遅れている。学校も地域も家庭も力を合わせてやっていかなければならない。

ふるさと教育というのは昔からずっとやっていることだが、お国自慢になってはいけない。氷見の悪い所、氷見の見てはいけない所をしっかりと子供たちと一緒に学ぶという姿勢が大事だと思います。浅野総一郎のことを知ることはもちろん良いが、氷見のこういうところをもう少ししたら良いのではという話をしなければならぬ。

いつも言っているが、志を果たして来るのではなく、志を果たしに来るのだということ。志を果たして帰ってくるのではなく、僕は介護士になる、教師になる、ハンドボールの先生になるのだという志を果たしに帰ってくるのだという環境を地域全体、市民全体で作り上げる、そうすれば必ず帰ってこなければいけないという気持ちになる。

少子高齢化の対策としては、これは産めや増やせやということではなく、目の前の子供たちにいかに氷見に帰ってきてくれるのかということだと思う。

こういったことがまちづくり協議会のテーマであり、学校だけでなく地域、家庭も重要で、これこそが市民の総合計画だと思う。そういうところまで踏み込んでいくことが大事だと思います。一部の人だけでなく、市民一丸となって作り上げていくものであるから、この総合計画は子供たちにしっかりと伝わる、響くものでなければならぬと思う。そういう社会を実現していただきたい。



(委員)

83 ページにある病児・病後児保育の実施施設の整備とあるが、急な発熱などに対応できるところがあれば、お母さん達も安心して働けるという話を前回していた。お子さんが急に熱を出して、保育園から連絡が来ると仕事を休まなければいけない。1日なら良いが、1週間くらいの入院となって会社を休むことになる、やはりお母さんたちは働きづらかったり、会社に居づらくなるということもある。長い入院は別として、当日は迎えに行き病院に連れて行って、その後に施設で見ただけだとしたら、お母さん達も安心だという意見を出しました。しかし、お話を聞くとなかなか難しい。看護師さんがいないとまず無理だということでした。

私立のアソカ保育園でしたか、そういう体制でやるつもりで部屋を作ったが、やはり看護師の確保が難しかったということで、結局ちゃんとした体制ではできていないということでした。

今、新町保育園が新しくなるが、ここに実施施設の整備と書いてあるということは、そういった対応ができる施設になるということか。

(事務局)

新町保育園を建替えるということで、人数は少ないですが、病児病後対応ができるようにと考えている。

(委員)

氷見市全体でも1日にそんなにたくさん熱を出す子供がいるわけではないと思う。公立私立で年間200人程度の子供しかいないので、私立も公立もなく、情報を新町保育園に集めて、必ず看護師の確保できる状態にさせていただいて、病気の時には普段違う保育園に通っていても、その日だけは新町保育園に預けられるというような体制ができないかなと私自身考えている。是非そのようにしていただければ、若いお母さんたちが安心して働ける環境が必要だと思う。

子育てセンターとの関わりがあるのですが、最近は「パパ活」と称して、パパたちの育児参加やセミナー参加などを行っている。子供をパパたちが見てくれるその間、ママたちがちょっと買い物に行ったり、息抜きできる時間を作ってあげるということをしている。

出張パパ塾を開催したところ、たくさん質問をされて、パパたちは積極的に参加してくださった。このように今の若いパパたちは非常に協力的で良いが、企業の間管理職の方の態度があまり良くなって、なかなか育休がとりづらいというのが現状のようである。

体育協会主催のHIMI×BSMで、その託児ボランティアをしており、去年、古墳前で早朝6時からヨガをしていた。古墳でヨガって素敵ですね。先程も話に出ておりましたが、古墳をもっとアピールしていったらどうかということにも関係してくると思います。また、海岸沿いで立山連峰を見ながら、綺麗な景色を見ながらヨガをするなどの企画を氷見では

できると思う。今の若いママたちはヨガブームなので、いい宣伝になるのではないか。

(部会長)

昭和生まれの人達は男尊女卑の考えなので、今、目の前にいる若い人たちを教育していった方が早いかもしれない。

中小企業でも育児休暇をとりやすい環境を作っていかなければならない。女性にも社会に出てもらわないと言いながら、女性だけが苦勞するような社会ではダメだということである。

そういうことをしっかり踏まえた政策、対策をとらなければいけないと思うが、それは市役所で考えていてもどうにもならない。

(事務局)

それに関しては、男女共同参画プランを作成している。男性の育児休暇や女性の活躍をどのように推進していくかということも考えているので、是非こちらに反映していきたい。

(部会長)

女性の活躍とあるが、現状では女性の自治振興委員が増えればいいと思う。一人もいない。女性にも自治振興委員になっていただけるような社会になってもらわないといけない。

(事務局)

まずは、役員になってもらうこと、そこからはじめていただきたいと思う。

(部会長)

確かにそうである。女性の自治振興委員が増えて欲しいと思う。女性の自治振興委員が1/3になったときに男女平等と言えるのではないか。一部の男性社会ではなく、地域全体で作り上げていく、地域づくりとはそういうものだと思う。

(委員)

私は早くに主人を亡くして、町内会などに出席していたが、そこで女性に何をさせるかという、お茶出しである。そこで私は大声を出した。なんでお茶出しが女の人なのかと。それから、うちの町内は男性がお茶を出している。

(部会長)

まあ、昭和の姿ですね。気付いた人から行動に移して考えを変えていかなければならないということですね。私もなかなか変えられないが、そういう認識を持って変えていこうという姿勢が大事だと思う。

(委員)

最近、若いパパがお子さんを抱っこして買い物している姿をよく見かけるが、育児に協力的で非常に良いことだと思って暖かく見守っている。家庭内では平等どころか女性の方が強い所もあるが、一步外の社会に出ると、女性の活躍の場が少ないというか、やや偏見があるのかもしれない。

(部会長)

今の子供たちは、食器を自分で洗ったりといった教育をされているので、その子ども達が成人して我々世代が居なくなる頃には、きっと男女平等な社会、素晴らしい社会になっているのではないかと思う。

(委員)

83 ページの仕事と子育てが両立できる職場環境づくりとあるが、子どもが少ないのは、仕事に就いたら子どもが育てにくいという意識を持っておられる方が多いからではないか。

大きな企業などでは、会社で保育ができる場所を設けている会社もある。安心して子供を預けることができれば、仕事もできるし子供も作りましようとなると思う。ひいては氷見の人口を維持できることにもつながると思う。

企業や事業所等の意識啓発とあるが、皆様がどれほど意識を持っておられるか分かりませんが、やはりお金がかかる話ですから、それに対して市が助成をするなどして対応できれば良いのではないかと思う。

(部会長)

仕事と子育ての両立ができれば良いですね。

今、おせっかいさんというのがあるが、結婚できない方が子供を作ろうと思っても難しい。結婚ができる環境をつくることも大事だと思う。最近は結婚しないという方もおられて価値観が変わってきていることも一つの大きな要因だと思う。

子どもが3人4人できたときに市からの補助がもっとあれば、子どもをたくさん産んでも育てていけると思える。1人より2人、2人より3人という具合に、物資両面での補助をしてあげる環境ができれば良いと思う。

新町保育園については、公立の認定こども園ができるということは大変重要なことだと思う。市内の園児対象とした病児保育の実施ということで、これを1つのベースとして市の中心となって機能していくこと、市民芸術文化会館と同じように新町保育園が大きなキーワードになると思う。これらの場所が子育て世代のお母さん方の応援の場になれば良いと思う。

(委員)

まず、小さい子供を持つ親の立場として言いたいことは、氷見警察署の再編についてである。氷見市に警察署があることで、我々市民が安心できる部分も大きいのではないかと思うが、行政的に何か意見することがあるのか、それとも受け入れるだけのものなのか。どうなのか。そこが分からないので教えて欲しい。

(事務局)

再編会議には市役所からも1人代表で出ています。その後、市長クラスの会合にも出ています。市民の皆様の意見を集約してこちらからも意見は言っているつもりである。

(委員)

他には、子ども達の通学路に関して、氷見市通学路安全推進会議に出席しました。

十二町から南部中学まで自転車に乗っての通学になるが、ある一部の区間は非常に歩道が狭くなっている。本来、自転車は歩道を走ってはいけないとなっているが、道路を走らせるのはとても危険な話である。ではどうすれば良いのかと相談すると、「実際歩道は通ってはいけません。ただ危険だと思ったら子ども達の判断に任せている」というようにグレーな対応になる。これらをどこにどう反映できるのかはちょっと分からないが、現状そういったことがある。

(部会長)

こうした話し合いの報告は、上にあがっているのか。

(事務局)

もちろん、あがっている。昨日も厚生文教委員会があり、通学路の危険箇所について今後の対応を含めて説明している。安全安心会議で出た案件について、今後の対応策はしっかり検討している。

(部会長)

特に危険な場所など、氷見市全体の長期的な計画の中にどう位置づけていくかが大事になってくる。子供たちの安全安心については何が何でも守ることが大切なことだから。

(事務局)

それについては、もっと強化しなければならないと思う。警察、氷見市役所道路課、教育委員会、学校とで安全点検を毎年している。千葉県的事件もあったので、緊急的にやっている状況である。

(委員)

PTAの関係もあるが、59 ページです。

もう少し事業を拡大したいと思って、今まで氷見市でやってきたので、なんとか氷見市内で移転地を探して、市の職員の方や議員の方に相談すると、氷見の地盤の悪さや水が無いことを言われ、どこか山を削るしかないとも言われる。何十年も前の古い思考で停止している方が多くて、これは支援でも何でもないと思う。

今アイザックの社長と仲良くさせていただいているが、そういった方々は駅周辺をどうやったら楽しんでもらえるかを考えていろいろやっている。企業誘致も大切かもしれないが、そういった地元企業を大事にしないといけない。地域貢献をしないと町は良くなると思う。51 ページ、59 ページが本当はとても大切なことなのだと思う。

84 ページに関して、一人一台のタブレットの配布が既に終わっているとされている。これらに伴う課題が山積していると聞いている。その辺の怖さもあるので、もっと視野を広げていただければと思う。

また、親学び講座の推進のおかげもあるが、ちょっとやり過ぎた感じがある。コロナ禍ということもあり、少し見直しが必要だと思う。県にその旨を伝えると各市町村のやり方で良いのでやっていただきたいとのことだった。

あとは、部活の在り方について、入善や朝日のように学校を離れて地域に丸投げという状況もある。少なくとも部活でいろいろなことを学ぶ機会があると思う。せつかくの成長期にもったいないと感じる。

あと、氷見市にはいろんなスポーツがある。私は現在相撲をしているが、隣の石川県に日本最古の古代相撲というものがあって、その文化を大事にしようという考えがある。ハンドボールの町、氷見というのは分かるが、他にもいろんなスポーツがあって文化があるので、もっと視野を広げてみてもらえたらと思う。

(部会長)

まとめていただきまして、ありがとうございます。

地元を大事にすることが大前提ですから、構成しているのは地元であり氷見市であるわけである。ギブアンドテイクでお互いに協力し合わなければならない。

物事には必ず光の部分と影の部分がある。何が影なのかを見極めることが重要になってくると思う。タブレットばかり見てもダメで、人と人との関わりの中で学習を成立させていくことが必要である。

部活動においては氷見市としてもっと時間をかけて考えていかなければならないと思う。ある程度は、部活動で子供を育てるという意識が必要である。昔は児童クラブがあって地域との関わりがあったが、今はそれが無くなってきている。親御さんと子供たち、地域との関わりが将来どうなるのか、光と影の部分がある中で、どこが影の部分なのかを明確にしていかなければならないと思う。

委員の皆様からいただきましたご意見については、第2部会の意見として、会長と他の部会長とも協議の上、第9次氷見市総合計画基本計画案を作成する際に反映していきたいと考えている。よろしく願います。

以上で本日予定しておりました議事は終了いたしました。委員の皆様方には議事の進行にご協力いただきありがとうございました。

それでは、この後の進行は事務局にお任せするので、よろしく願います。

(事務局)

部会長、ありがとうございました。

委員の皆様には貴重なご意見をいただきありがとうございました。本日は1時間半程度という限られた時間の中で、十分にご発言いただけなかった部分については、また地方創生推進課まで何なりとご意見いただきたい。

また、本日は第2部会ということですが、明日は第1部会、明後日に第3部会を開催する予定となっている。この3つの部会終了後に、会長と各部会長の協議の上、基本計画案を取りまとめ、現在の予定としまして年明けての1月24日に開催できればと考えている。また、日程が決まりましたら皆様にご案内させていただきたいと思うので、よろしく願います。

## 5.閉会

(事務局)

それでは、以上を持ちまして第3回氷見市総合計画審議会第2部会を閉会いたします。

本日はありがとうございました。